

令和4年度 学校評価アンケートの結果を受けて

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けていますが更なる教育の環境整備と質的向上、ひいては教育成果の向上のために、保護者の皆様、在籍生徒、教職員を評価者とする学校評価アンケートを実施しております。

この度、集計結果に分析を加え本書面をまとめました。本校が目指す学校像をご理解いただくとともに、今後の益々のご協力を賜りたく、是非ともご高覧くださいようお願い申し上げます。

1. 生徒の心身の健康を把握し、欠席・遅刻をしないよう指導するなど、「生徒一人ひとりを大切にせる教育」に努めている。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	28.7	34.9	44.1
少しそう思う	48.2	44.6	50.0
どちらともいえない	19.7	16.0	2.9
あまりそう思わない	3.1	3.4	0.0
全くそう思わない	0.3	1.1	2.9

生徒の約8割が高評価を示すと同時に、進級する毎に高評価が増加することから、学校の活動が受け入れられている状況がうかがえる。しかし、「どちらとも言えない。」を含め低評価の生徒が約2割存在することは、今後の課題としなければならない。また、教員の中で低評価の思いがあることから、教員間の意思疎通及び共通理解が必要である。

2. 個性や適性に応じて進路情報を提供するなど、進路目標達成のために細やかな指導をしている。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	30.1	43.0	61.8
少しそう思う	38.6	38.0	29.4
どちらともいえない	24.8	14.9	5.9
あまりそう思わない	4.5	3.3	0.0
全くそう思わない	2.0	0.9	2.9

3学年については、生徒保護者ともに満足群で大きく減らしている。保護者は昨年度89.7 から-17%の 73.0%である。生徒は 90.7%から-6.1%の 84.6%となっている。このような減少傾向は全学年に及ぶ。

3学年の保護者については2年時の満足は84%と高水準であったことから今年度1

2%も低下していることは重く受け止めたい。原因については、本アンケートからは見て取れない。しかし、一方で、今年度の3学年の進学・就職実績は好調である。ではなぜこのような乖離が起きるのか。一つは生徒数増加により、一人ひとりに指導が行き届かなかったことがある。満足度を感じる生徒・保護者の実数としては、過去最高の値、もしくはそれに近い数字を出している。しかし、全体の割合としては、減となっている。これが実態と考える。

今年度の3年生には10名程度、保護者27名程度が進路の取り組みについて不満足を表明している。実際そのような感想を持った生徒・保護者の進路指導状況を具体的にみて分析したいと考えている。

3. わかりやすい授業の工夫や実践を行っている。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	13.3	23.0	29.4
少しそう思う	44.5	46.0	52.9
どちらともいえない	35.3	22.3	14.7
あまりそう思わない	6.2	7.0	0.0
全くそう思わない	0.6	1.7	2.9

生徒満足度、保護者満足度共に10%程度増加している。生徒一人タブレットや電子黒板、schoolTaktなどの教育アプリ等の活用がより広がり、ICT教育の質が向上していることの表れであると考え。本校の推進している教育が内部からも評価されていると考える。

しかし、コース毎に見ると、衣創科が満足度アップしたが、特進・商業科が若干ダウンしている。コース毎の特色ある学びで改善の余地がある部分があると感じている。コース全体の問題というよりは特定の教科に課題があることが若干の減少となり表れていると推察する。校内で議論を深めていきたい。

4. あいさつやマナーなど、当たり前のことを大切にしている教育を推進している。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	25.9	37.9	41.2
少しそう思う	44.8	38.9	38.2
どちらともいえない	24.5	16.7	14.7
あまりそう思わない	3.9	5.4	2.9
全くそう思わない	0.8	1.1	2.9

昨年の数値と比較すると、今年度は生徒の数値の推移が大きい。特に「少しそう思う」が5.1ポイント減となり、「どちらともいえない」が4.8ポイント増となっている点が顕著な差である。

教員側・生徒側双方で、いくつか要因は考えられる。教員側の要因としては、生徒・保護者の価値観が多様化する中で、学校が持つ従来型の価値観(=「当たり前のこと」)を生徒に対して一律に共有させようとするような指導を行うことが難しくなっていることが上げられよう。

これは、あいさつやマナーなどの生活指導だけでなく、学習指導なども同様である。考査前の学習強化週間や漢字学習を利用して学習に対する雰囲気作りをクラスで行うと、それについてこれずに欠席する生徒が生じるような中では、生徒に対して従来型の価値観に基づく行動を一律に求めることは難しい。「大きい声であいさつしなさい」と強く指導すれば「パワハラ」、「勉強しなければ赤点になってしまう（だから勉強しなさい）」といえ「モラハラ」、「頭髪が入学式と比べて赤くなってきたので直しなさい」と言えば「人権侵害」と言われることさえある中で、多くの教員が「当たり前」と思っていることでも強く指導できない現状があると考えられる。

一方で生徒側の不満も理解できる。今回のアンケートで「どちらともいえない」と回答した生徒の多くは、まじめで折り目正しい生徒であると推察するが、学校が提示するルールに従って生活を送っているこれらの生徒にすれば、ルールやマナーを守らずに権利のみを主張する生徒に対して不満を感じるのだろう。また、そもそも「ルール」や「マナー」というものが集団生活を円滑に送るために個の権利に制限を加えるものであるため、それを守らなかったり、反故にしたりすることは集団生活のなかで不利益を被る層が発生することを意味する。たとえば、学校のルールを守らずに授業中に騒げば、授業に専念したい層の学習権を侵害することになる。そういった侵害や不利益の発生状況が学校生活のさまざまな場面で生まれることで、不満は蓄積され、学校への不信という形で表明される。今年のアンケートは、それが数値として明らかになった結果であると受け止めるべきではなかろうか。

学校として一律の価値観を提示することが困難な時代となっているなかでも、学校として譲れない価値（特に学校の本来的業務であり、法的根拠を持つ学習指導の領域）は丁寧に示し続けることが重要である。同時に、教員が個々の生徒の持つ多様な価値観を察知しながら、状況に応じた価値観や行動様式を提示していくことが求められていくだろう。

一方で、学校が考える当たりの価値観について、まずは保護者に理解を求めて賛同してもらおうこと、そして家庭内文化として子どもと共有してもらおうことも不可欠である。あいさつやマナーといった文化の指導には、多くの立場の人間の関わりが必要である。

5. いじめアンケートを実施するなど、いじめのない安心して通える学校にしようと努力している。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	17.2	38.4	55.9
少しそう思う	44.5	39.4	32.4
どちらともいえない	31.5	15.7	8.8
あまりそう思わない	5.4	4.1	0.0
全くそう思わない	1.4	2.3	2.9

1・2年生の保護者生徒ともに昨年度より評価が下がっている。これは、見えるところの取り組みがアンケートのみで、しかも保護者には見えていない。コロナの影響で学年集会・全校集会等が実施できなかったことからクラス内での呼びかけ・取り組みしか出来なかったことによるものと思われる。

もう少し広報による周知を行うようにしたい。

6. 生徒が部活動を活発に行うよう努力している。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	26.8	38.3	35.3
少しそう思う	34.4	32.4	55.9
どちらともいえない	28.2	22.4	2.9
あまりそう思わない	7.9	5.1	2.9
全くそう思わない	2.8	1.7	2.9

保護者は毎年同じような傾向である。生徒においては、学年が上がるにつれて評価は上がって行く傾向にあるものだが、2学年で「どちらとも言えない」以下が、昨年から7ポイント下がってしまった。もっと、個々に応じた部活対応が出来るように心がけていきたい。コロナ下で活動制限がある中、ある程度評価していただいていると思われる。

7. クラスマッチや学園祭等の生徒会行事に、生徒が意欲的にとり組むよう努力している。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	39.4	46.9	52.9
少しそう思う	45.1	39.6	41.2
どちらともいえない	13.0	10.7	2.9
あまりそう思わない	2.5	2.0	0.0
全くそう思わない	0.0	0.9	2.9

学校行事において本校は、コロナ下で制約のある中、感染対策に配慮しながらほぼ通常通り実施した。HP などでの広報も充実してきたため、特に3年生保護者の評価が上がっている。さらに生徒が満足感を味わえるような企画、運営を心がけたい。

8. 朝読書を実施するなど、言語活動の充実を図り、心豊かな人間の育成に努めている。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	16.6	30.3	23.5
少しそう思う	48.5	39.9	35.3
どちらともいえない	31.0	21.1	32.4
あまりそう思わない	3.7	5.9	5.9
全くそう思わない	0.3	2.9	2.9

全般的に生徒の7割近くが「よく取り組んでいる」と評価している。しかし、実際は朝読書というよりは、朝の学習となっており、今後の朝の時間の使い方には工夫が必要と思われる。

9. P T A活動や地域の清掃活動など、保護者や地域との連携を図る教育活動を推進している。

(単位%)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	9.6	25.6	14.7
少しそう思う	38.3	38.9	35.3
どちらともいえない	43.7	26.3	29.4
あまりそう思わない	7.6	5.4	14.7
全くそう思わない	0.8	3.9	5.9

今年度の2年生保護者が昨年1年生時と比較してかなりそう思う+少しそう思うが7.9%の増、今年度の3年生保護者が昨年2年生時と比較してかなりそう思う+少しそう思うが4.1%の増。

以上より、微増ではあるが良い方向に意識が向上していることより、このコロナ禍における制限された活動の中でも、着実に保護者の皆様に評価を得ているものと思われる。

【課題】

コロナによるの制限が解かれる方向にある状況で、より良いP T A活動の内容を会員一丸となって進める必要があると思われる。

惺山高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校づくり、そして在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。

今年度の調査項目として新型コロナウイルス感染症対応アンケートも必要であったと感じています。来年度のアンケートは項目を見直し、ICT教育項目、ホームページ等配信項目等も盛り込み、私学として更により調査をしていく予定です。

今後とも本校の教育の改善にご協力とご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

担当者：教頭 松井寿夫